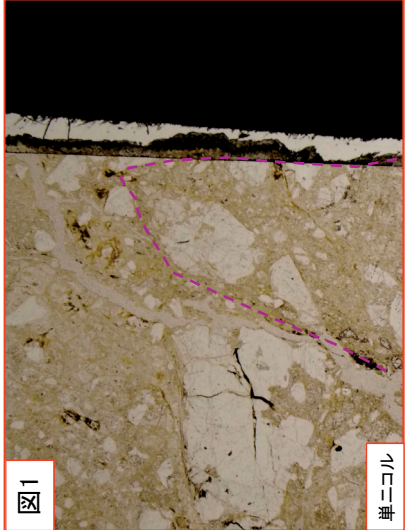
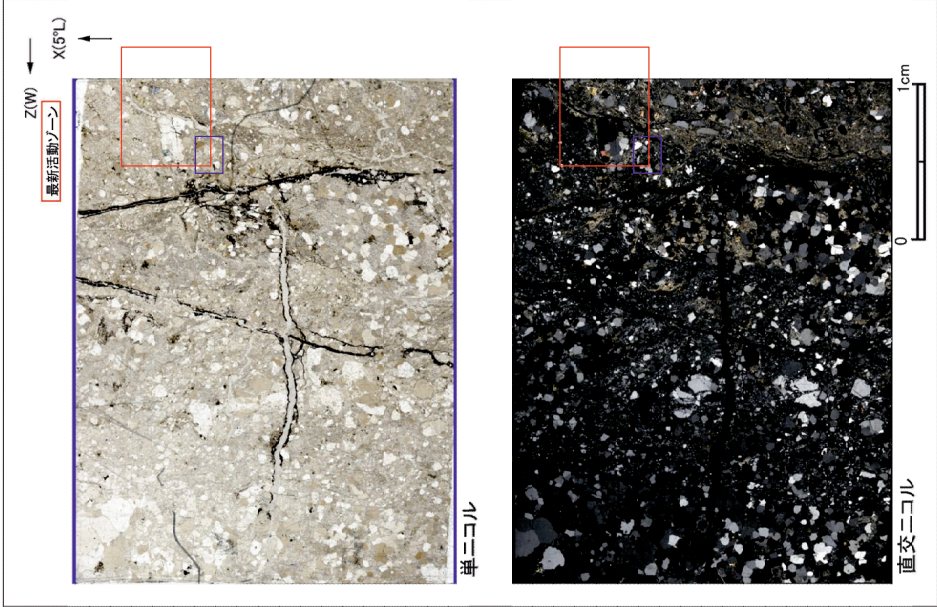
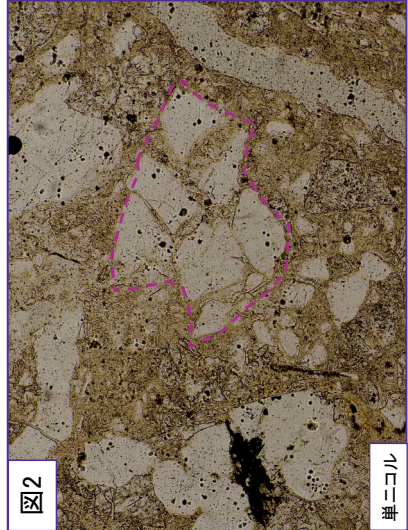


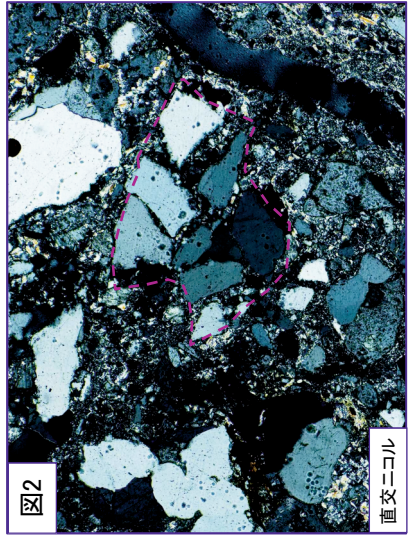
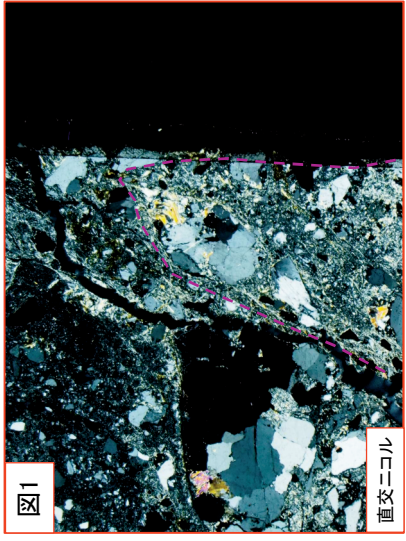
- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 断層面に沿った帯状の粘土状部の粘土状部は連続しない。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



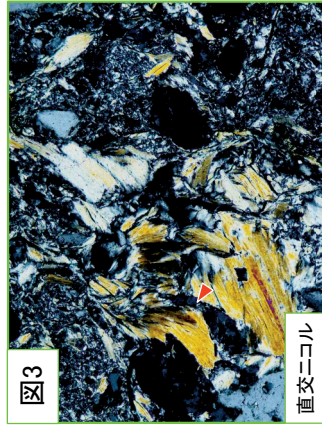
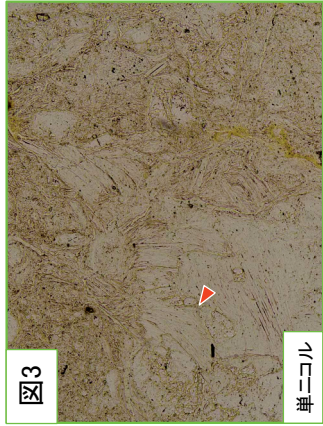
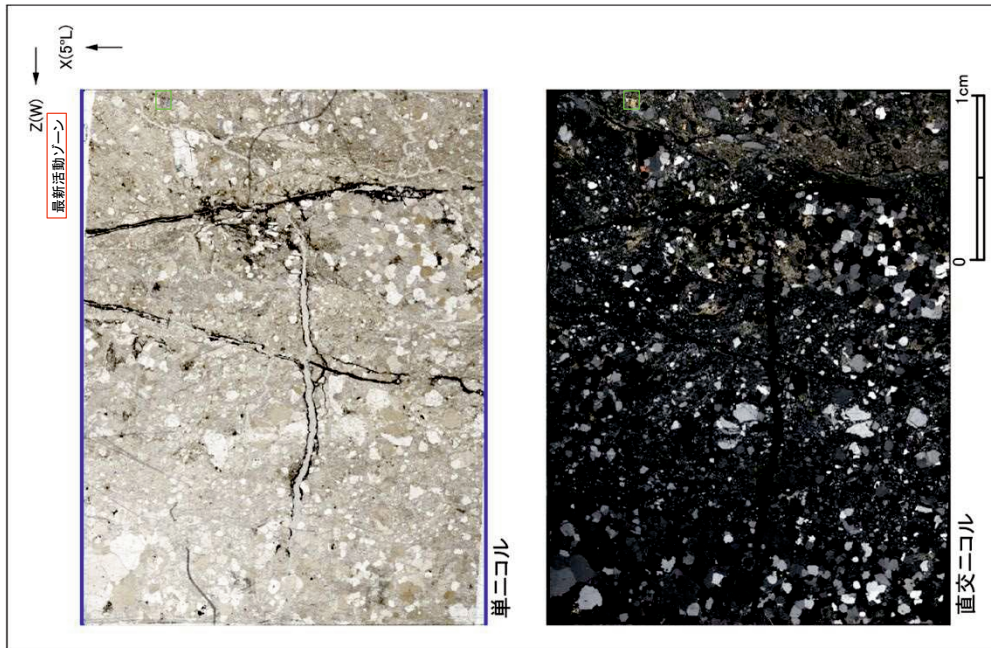
破線は粘土状部の分布範囲を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



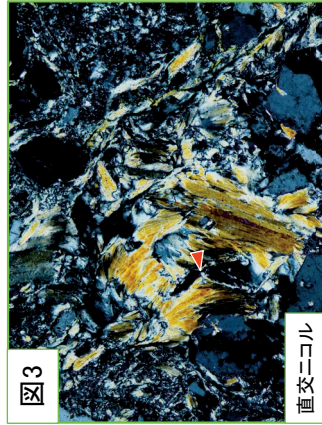
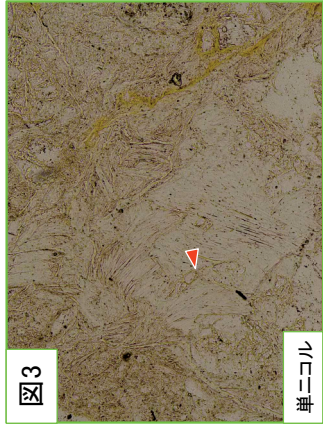
・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



赤三角は屈曲箇所を示す



ステージを反時計回りに
約45度回転



赤三角は屈曲箇所を示す

(肉眼観察結果 深度19.82m)

- 深度19.82mの粘土混じり礫状部には幅1mm以下の細粒部が挟在しており、幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土混じり礫状部の細粒部は、原岩組織の有無が判断できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で確認された粘土混じり礫状部の細粒部沿いに、網目状の細粒部が認められる。これは敦賀サイトの露頭で認められる状況と同じであることから、熱水変質作用により生成したものと考えられる。

肉眼観察結果、薄片観察結果より、敦賀サイトの破砕部の特徴(熱水変質を受けたことにより軟質化している)を矛盾なく説明できることを確認した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	- (0.1)	- (無)

* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

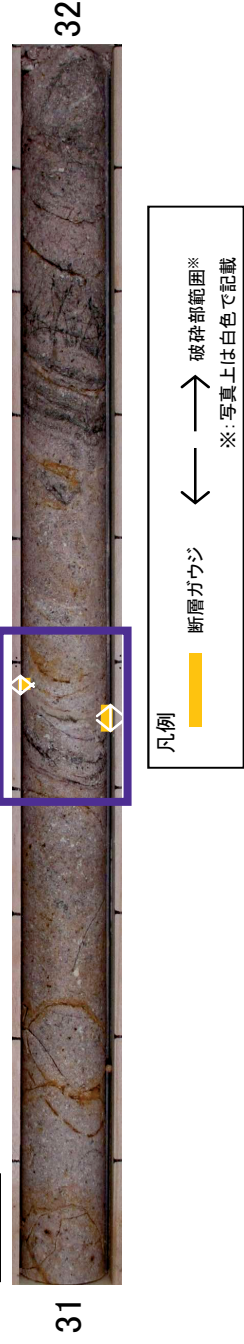
第7.4.4.317図 (6) 破砕部性状 H24-D1-2 深度19.78～19.87m (断層岩区分の総合評価)

・深度31.44～31.46mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●31.44～31.46m：破砕部
粘土状部 (Hc-1)
傾斜35°で直線的にシャープに連続。
径1～2mmの石英粒を含む。軟質。灰
白～にぶい黄橙～灰赤色を呈する。
幅10～12mm。

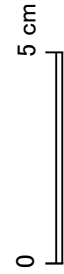
コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



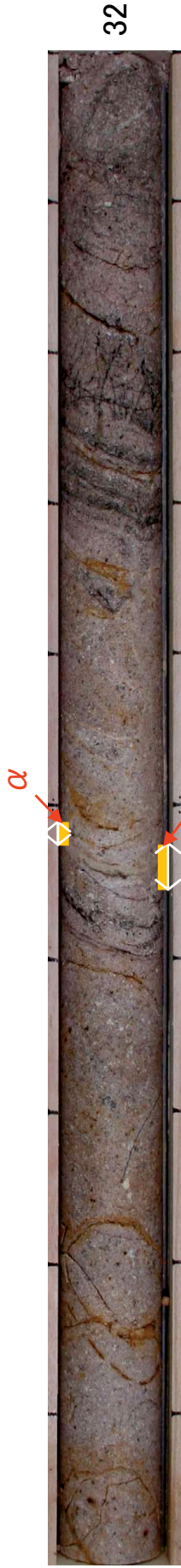
青粒部拡大



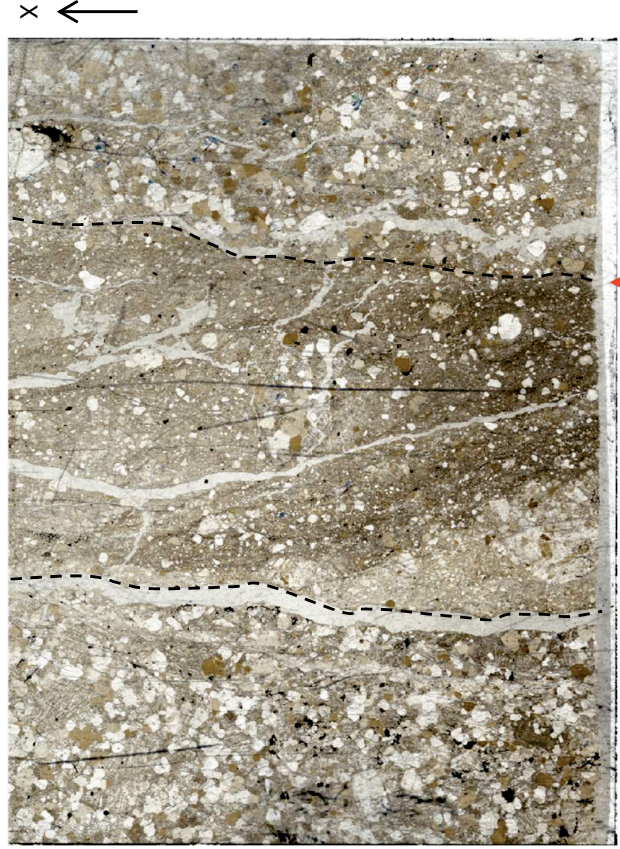
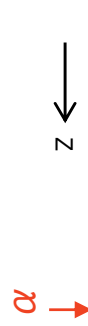
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

コア写真

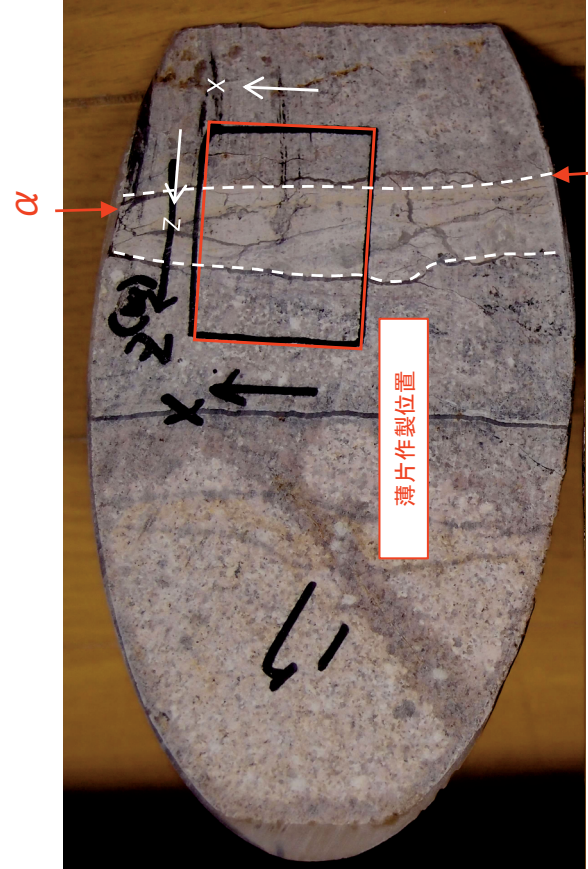


薄片全景写真(単ニコル)

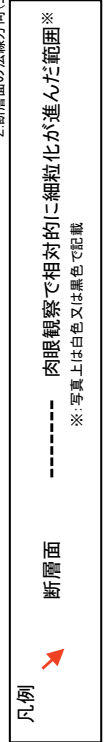


X: 透視方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片作製位置写真

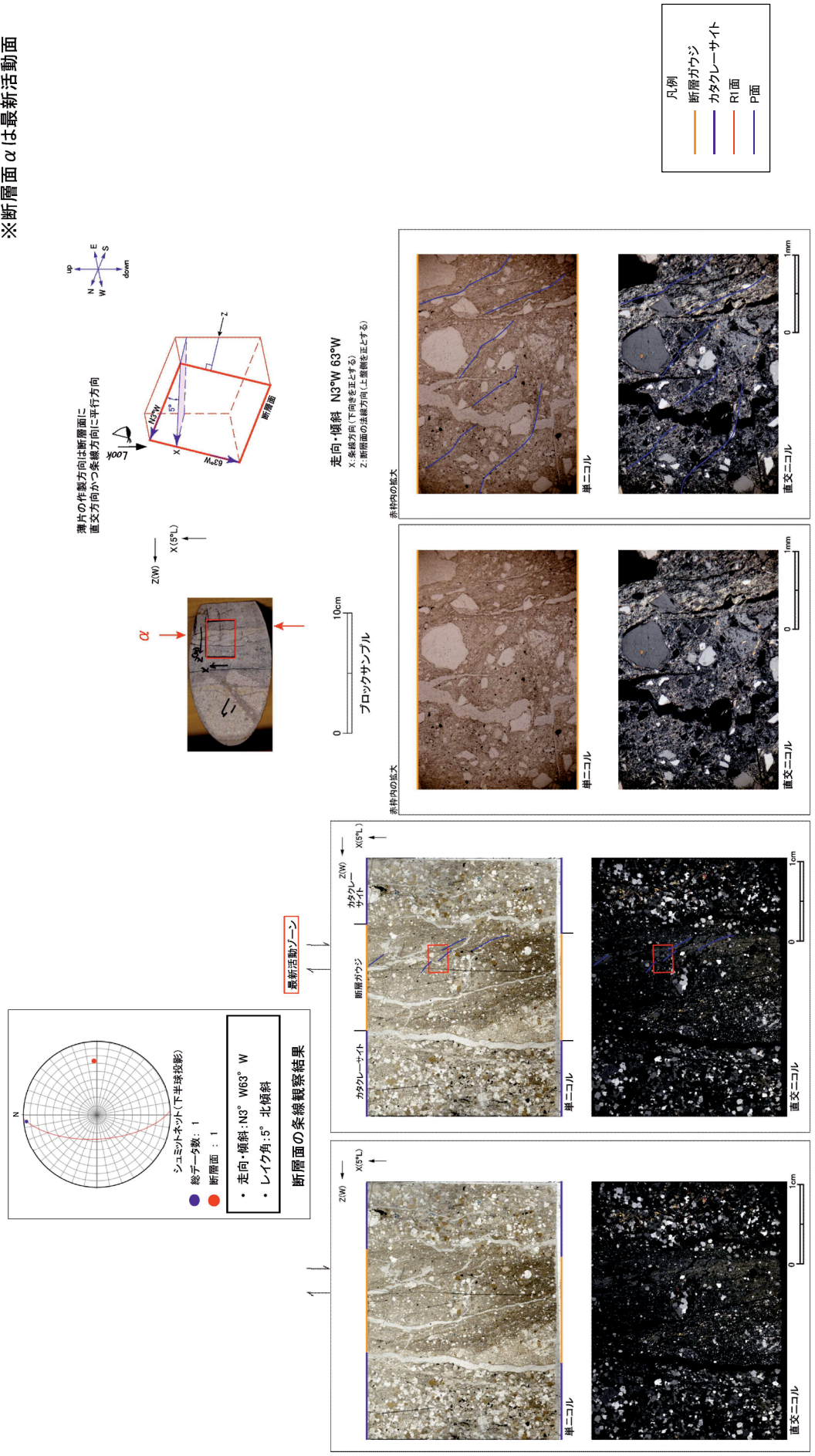


X: 透視方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



・H24-D1-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば、最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに寄り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 > 岩片は少ない。
 > (カタクレーサイト) 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
 > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.318図 (3) 破砕部性状 H24-D1-2 深度31.44~31.46m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))